

令和 5 年 6 月 13 日現在

機関番号：34414

研究種目：若手研究

研究期間：2018～2022

課題番号：18K13099

研究課題名（和文）アラブ諸国における高等教育質保証に関する研究 国家・大学・市場の関係から

研究課題名（英文）A Study on Quality Assurance of Higher Education in the Arab States: Nation, University and Market

研究代表者

中島 悠介（NAKAJIMA, Yusuke）

大阪大谷大学・教育学部・准教授

研究者番号：60780939

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 1,700,000円

研究成果の概要（和文）：本研究はアラブ諸国に焦点を当て、高等教育部門における質保証の様相を包括的に明らかにすることを目的としている。その中で、UAEでは多くの海外分校が展開しており、それらを対象とした質保証に国家、首長国、適格認定団体といった多様なアクターが、それぞれの特質を発揮しつつ関与していることを明らかにした。また、同じく海外分校が多く展開しているカタールでは、国家が質保証の制度を整備しつつ、それとは異なる枠組みで非政府組織が質保証に関与していた。エジプトでは国家教育質保証・適格認定機構が国内機関の質保証において重要な役割を果たしながらも、適格認定が専門分野別評価に大きく偏っているという課題も見られた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、これまで比較教育学研究において等閑視されてきたアラブ諸国における高等教育部門を対象とし、その質保証の様相を明らかにしてきたこと、また、グローバル化が進展する高等教育部門において、国際的な潮流から影響を受けながらも、イスラームや国内の政治体制を考慮する形で質保証制度が展開している状況を考察したことに学術的意義がある。加えて、高等教育のグローバル化が進展する中で、日本の高等教育機関もアラブ地域の機関と教育・研究上の連携を強化したり、留学生をはじめとした交流の機会が増加したりする状況があり、その基盤となる高等教育制度のより深い理解につながる点で社会的意義があると考えられる。

研究成果の概要（英文）：This study aims at clarifying the quality assurance of higher education sector in middle east region, especially focusing on United Arab Emirates(UAE), Qatar, Egypt and so on. Many International Branch Campuses (IBCs) have developed in the UAE, and many kinds of actors, such as federal government, each emirate authorities, accreditation bodies, have engaged in the quality assurance of IBCs, exerting their characteristics. In Qatar, where many IBCs have developed such as in the UAE, while national government sector covers quality assurance of whole higher education sector, Qatar Foundation, as a governmental non-government organization, has engaged in the quality assurance of IBCs outside national quality assurance framework. And finally, while the National Authority for Quality Assurance and Accreditation of Education(NAQAAE) has played important roles in quality assurance of higher education in Egypt, we observed the unbalanced situation on the academic fields of accreditation.

研究分野：比較教育学

キーワード：アラブ諸国 高等教育 質保証 アラブ首長国連邦 カタール エジプト

1. 研究開始当初の背景

高等教育の重要性に対する認識が世界的に高まり、大学の質をいかに保証するかという課題は先進国、途上国問わず重要な関心事となっている。アラブの範囲は、一般的に「アラビア語を話す人々がマジョリティを占める地域」として地理的に拡大され、東はアラブ首長国連邦(UAE)やカタールを含めたアラビア半島諸国から、西はモロッコなどが位置する北アフリカ地域が大まかに含まれる。この地域は人口の急速な増加や経済産業の発展により、高等教育部門の拡大が著しく、それに伴い高等教育機関の質保証制度が整備されてきた。例えば、UAEでは1999年に高等教育科学研究省が第三者質保証機関として「学術・適格認定委員会(CAA)」を設置し、すべての高等教育機関の設置認可とプログラムの適格認定を求めている。また、エジプトでは2007年に高等教育省が「国家教育質保証・適格認定機構(NAQAAE)」を設置し、機関に対する機関別評価と、各学部・プログラムへの専門分野別評価を開始した。

このように、両国をはじめとしたアラブ地域においては、国家的な第三者質保証機関が整備されてきているものの、これらの国ぐにの高等教育機関において、ローカルな視点を踏まえて質保証の取り組みを検討されてきたとは言い難い。多くの先行研究では、欧米諸国の質保証モデルを取り入れたり、国際機関により特定分野の教育の質の改善を行うことに焦点が当てられてきた(OECD-World Bank 2010, Morgan et al 2009)。しかし、例えばエジプトではNAQAAEが設置され、すべての機関が適格認定を受けることが求められるが、実際に機関別評価を通して適格認定を受けている大学はカイロ・アメリカン大学の1校しか見られなかった。同時に、エジプトに特有のイスラーム宗教教育機関であるアズハル大学についても、伝統的なイスラームやアラビア語学を対象とした専門分野別評価が整備されたものの、現時点ではこうした伝統的分野に対する適格認定は行われていない。また、UAEではCAAが設置されたが、連邦予算により運営される連邦立大学は基本的に評価の対象外であり、独自の内部質保証を構築していることから、国家による規制から離れた独自の展開の論理を有していることが想定される。アラブ諸国の高等教育質保証は、欧米諸国の質保証制度を参考にして整備され、また、世界銀行や国連開発計画アラブ地域委員会による支援を受けて発展してきた点で、概して欧米諸国の質保証をモデルにしている。一方で、イスラームによる伝統的な教育や、潤沢なオイルマネーを資源とする国家権威の強さに見られるような、ローカルな要素と融合もしくは分離しながら展開していることが予想される。

2. 研究の目的

以上の背景から、本研究では、アラブ諸国の中でも主にUAEとエジプトに焦点を当て、高等教育機関の質保証がどのように展開しているのかを包括的に明らかにすることを目的としている。この2か国に焦点を当てる理由は、両国ともアラブ諸国で最大規模の高等教育機関数を誇るとともに、アズハル大学をはじめとしたイスラームの伝統的教育や、オイルマネー等に由来する国家権威といったローカル性が表出しやすいと考えた。なお、湾岸地域についてはUAE以外にも、カタールやサウジアラビアといった国ぐにも検討の対象とした。

本研究の分析枠組みとして、クラーク(1994)が提唱した、高等教育の規制環境が「国家」「大学(寡頭制)」「市場」の調整によって構築されるという「トライアングル・モデル」を参考にした。例えば、深堀ほか(2012)は、この枠組みを日本における高等教育質保証の規制環境を捉えるために援用し、政府(大学設置基準など)、専門的権威(大学・専門団体)、市場(大学ランキング・学校選択)のアクターがどのような仕組みを通して日本の高等教育質保証に関与しているのかを考察しており、本研究にも有用であると考えた。本研究では、クラークの枠組みを参考にしつつ、UAE・エジプト両国の質保証において、国家(政府)、大学、市場にあたるアクターを特定し、それらがいかに高等教育機関の質保証に関与しているのかを検討する。

3. 研究の方法

(1) 質保証における国家に属する機関の役割と機能の検討

先行研究の渉猟から、アラブ諸国で設置されている第三者質保証機関は、多くの場合、高等教育省や教育省といった国家政府部門により設置されている場合が多い。例えば、UAEにおけるCAAは連邦政府の高等教育科学研究省(現在は教育省に統合)に設置されたものである。また、エジプトにおけるNAQAAEも同様、高等教育省が主導して設置したものである。本研究では、これらの国ぐににおける第三者質保証機関をはじめとして、政府部門に属する高等教育質保証に関わる機関を特定し、その設置の背景や機関としての役割、評価項目の特徴やローカルな文脈での適用について明らかにする。

(2) 高等教育機関の内部質保証の仕組みと重点の検討

前項と関連して、申請者がこれまでに関係を構築しているUAE及びエジプトなどにおける高等教育機関の内部質保証の仕組みを明らかにする。特に、国家的な第三者質保証機関に対応する形でどのように内部質保証の仕組みが整備されているのか、学部や専門分野に応じた取り組み

や、どのようにローカル性が重視されているのかなどについて検討する。

(3) 学生や大学ランキング等の市場による質保証への関与の検討

市場に属する評価については、例えば大学ランキングや学生・企業による評価・選定などが挙げられるが、高等教育機関の質を保証するためには(直接的な仕組みとして関与するわけではないものの)考慮すべき点になると考えられる。特に、当該国家で旗艦的な役割を果たしうるといった高等教育機関については、アラブ地域や世界大学ランキングのような順位付けを重視する傾向が想定される中で、ランキングや評判等が高等教育機関の質保証にどのように関与しうるとかを検討したい。

4. 研究成果

(1) アラブ首長国連邦(UAE)における状況

UAE は世界有数の外国高等教育機関の分校(海外分校)が進出している国であるという状況を踏まえ、それらを取り巻く質保証の状況について取り上げた。UAE(連邦)ドバイにおける海外分校の質保証の仕組みを比較検討した結果、これらの地域ではある程度共通の傾向として、分校の質保証において本国の質保証機関や本校による関与が見られたものの、それらに対する現地の質保証機関のあり方については相違点があった。特に、国家としての質保証を特に重視しながらも国際的な連携を強め、本校・分校間の同等性を必ずしも重視しないようなUAEの連邦レベルの質保証に対し、国家的・地域的な質保証の枠組みには含まれず、本校・分校の同等性に評価の重点を置くドバイという違いが見られ、それらの違いは分校の管理運営の形態や本校・分校間の関係にも表れていることが明らかになった(中島 2021)。

また、海外分校の内部質保証の事例として、アラブ理工・海運アカデミー(AASTMT)を取り上げた。AASTMT はエジプト・アレクサンドリアを拠点としてアラブ地域で展開してきたが、シリアのラタキアやUAEのシャルジャ首長国でも分校を設置している。AASTMT は、アラブ連盟に所属する機関として組織的にも連盟及び各国首脳と密接に結びついている点で、アラブ地域を基盤として展開してきた。しかし、その一方で「海洋」「海事」「国際物流」といった高度に国際的共通性かつ専門性を持つ学問分野をカバーしていることから、その分野の特質として、IMOによる「船員の訓練及び資格証明並びに当直の基準に関する国際条約(STCW)」をはじめとした国際機関の規則や要件に従うことが重要となっている。この要素はAASTMT及びそのエジプト国外の分校の展開にも表れており、質保証や管理運営において本校を中心とした体制を整備しつつ、一方で各分校における当該地域の規制環境に沿った展開や教育活動を行いながら、最終的には本部が一元的にそれらを管理するという方針の中にも見て取れる。加えて、教授言語が英語とされ、専門職業団体による適格認定も欧米諸国が中心となっている状況に対し、AASTMT シャルジャではCAAによる機関の設置認可、プログラムの適格認定を通過する必要があり、ローカルな規則にも対応して展開することが求められる。特にQFEmiratesをはじめとした資格枠組みや機関有効性の方針に従って運営されている点で、学習成果や改善プロセスを意識した活動が行われていることが看取できる(中島 2023b)。

加えて、近年の動向として、ドバイにおける海外分校への格付け制度が挙げられる。ドバイ知識・人材開発庁(KHDA)が2018年より、英国の大学評価機関であり、世界の大学ランキングでも著名なクアクアレリ・シモンズ社(QS社)と連携し、それらの分校を対象とした格付け制度を開始した。この格付け制度では、コア・カテゴリー、学習環境カテゴリー、専門性カテゴリー、先端カテゴリーの4つのカテゴリーの評価が点数化され、合計点に応じて1つ星~5つ星及び5つ星+の格付けが付与される。この格付け制度が果たしつつある主な機能として、(1)分校を含めた社会への統一的な評価ツールの提供、(2)海外分校に対する改善のための視点の提供、(3)学生・保護者への情報提供の3つが想定されていることが明らかとなった。また、海外分校の選択においても保護者・学生ともに参照していると認識されており、KHDAや海外分校にとってもマーケティングの観点から重視されていた(中島 2023a)。

(2) カタールにおける状況

カタールではもともとの高等教育部門の規模が小さいため、国家として統一された高等教育制度や法規が形成されにくい土壌がある。このような制度的基盤に加え、海外分校の運営には政治的に中心的な位置づけを占める王族が含まれ、また、非政府機関でありながら組織面・資金面で公的な性格が強い「政府系非政府機関」であるカタール基金が資金提供を行うことで、分校の運営に対して大きな影響力を有している。そうした状況の中、2011年には政府機関である最高教育評議会(2016年より「教育・高等教育省」に改組)の高等教育機構が、海外分校を含めた高等教育機関を対象として設置認可及びプログラムの適格認定を実施するため、それらの基準を示す『カタール・スタンダード』を策定した。しかし、国立大学や多くの海外分校にはこれらの質保証は適用されていない状況がある。特に、カタール基金に誘致され、エデュケーションシティに立地している海外分校には、『カタール・スタンダード』制定以前と同様にカタール基金が運営面を中心に関与している。このような分校の受入国におけるアクターによる一定の関与がある中で、分校には本校との関係を維持しながら展開されることが求められている。質保証では、本校や本国の質保証機関、国際的に展開する専門団体による評価が重視され、カタール基金は直接的に分校の質保証に関与することは少ないが、資金提供者としてこれら本国からの質保証の

取り組みが適切に履行されていることを監督する役割を持っている。

最高教育評議会・高等教育機構は、分校を含めた高等教育機関に対して機関の設置認可、プログラムの適格認定に対する基準を設定し、また、これらの評価を通過した機関の学位を認証する役割を持っていた。しかし、カタール基金により誘致された分校は、高等教育機構の評価を受けなくても自動的に同じ認証が得られることがわかった。つまり、こうした分校も最高教育評議会による認証が不要というわけではなく、特にカタール人の学生が奨学金を受けたり、カタール人学生を公的機関に就職させたりする際に学位の認証が求められるため、その重要性は共通して認識されていた点で、国家的な制度の枠外で展開しているわけではないことが示唆される。

以上をまとめると、カタールにおける海外分校は、本校及び提供国における質保証アクターによる関与と、受入国であるカタール国内のアクターによる関与との間に挟まれながら展開しているといえる。特に、受入国における分校の質に関わるアクターとして、政府機関である最高教育評議会とともに、1つの非政府機関に過ぎないカタール基金が潤沢な資金を背景に直接的な関与を示していることは、高等教育部門における公・私との区別が曖昧なカタールの特質であると考えられる。カタール基金は海外分校に対して統一的な質の基準や評価の手続きを示しているわけではなく、分校に対して求める質の内容や程度は相手により異なるという点で、その関与のあり方はある種「私的」なものであり、海外分校はそうした受入国のアクターからの関与にも対応することが求められる(中島 2021、中島 2020)。

(3) エジプトにおける状況

アラブ諸国では1990年代後半以降、国家の質保証機関が設置されてきており、エジプトでも同様、高等教育のみではなく、k-12教育も含むすべての教育部門の質を保証・改善するために、2007年にNAQAAEが設置された。しかし、エジプト高等教育の構造は複雑であり、そこには公立大学、私立大学、公立/私立技術機関、そしてアズハル大学(イスラーム宗教教育機関)が含まれている。このような状況のもと、エジプト高等教育においてNAQAAEがどのような役割や課題をもっているのかを検討した。

結果として、NAQAAEは機関別評価と専門分野別評価の適格認定を通して、高等教育機関の質の統合を図ろうとしている。しかし、いくつか課題も見られる。各公立大学は非常に大きな規模をもっているため、それらが機関別評価を受けることは難しい。加えて、高等教育機関にとっては、適格認定を受ける明確なインセンティブも少ない状況にある、というも、学生の入学規模はエジプト政府によって決められており、NAQAAEによる適格認定自体は学生の入学にそれほど影響を及ぼしていないためである。中央集権的な管理はエジプト高等教育の特徴であり、NAQAAEは適格認定を通して高等教育機関の質を統合しようとしているが、政府による統制自体が高等教育機関の質保証の普及の障害になっている状況が見られた(中島 2018)。

【参考文献】

- Morgan, B. et al. "Quality Developments in the Gulf." *Quality in Higher Education*. vol.15, no.1, 2009, pp.1-86.
- OECD-World Bank. *Higher Education in Egypt: Reviews of National Policies for Education*. OECD Publishing: Paris, 2010, pp.1-306.
- クラーク, パートン R. 著、有本章訳『高等教育システム 大学組織の比較社会学』東信堂、1994年。
- 中島悠介「ドバイにおける海外分校格付け制度の導入と機能」『日本比較教育学会第59回大会発表要旨』上智大学、2023a年6月17日。
- 中島悠介「アラブ地域における高等教育機関のネットワーク化に関する一考察：アラブ理工・海運アカデミーの分校展開を事例として」『アジア教育研究報告』第16号、京都大学大学院教育学研究科比較教育学研究室、2023b年、22-45頁。
- 中島悠介『湾岸アラブ諸国における外国大学分校の質保証』東信堂、2021年。
- 中島悠介「カタールにおける外国大学分校の展開 「公・私の曖昧さ」の視点から」『留学交流』vol.109、日本学生支援機構、2020年、12-17頁。
- 中島悠介「エジプト高等教育における国家教育質保証・適格認定機構の役割と課題」『地域連携教育研究』第3号、京都大学学際融合教育研究推進センター地域連携教育研究推進ユニット、2018年、48-60頁。
- 深堀聡子ほか『学習成果アセスメントのインパクトに関する総合的研究』国立教育政策研究所、2012年。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計5件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 3件）

1. 著者名 中島 悠介	4. 巻 16
2. 論文標題 アラブ地域における高等教育機関のネットワーク化に関する一考察：アラブ理工・海運アカデミーの分校展開を事例として	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 アジア教育研究報告	6. 最初と最後の頁 22-45
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 中島 悠介	4. 巻 109
2. 論文標題 カタールにおける外国大学分校の展開 - 「公・私の曖昧さ」の視点から -	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 ウェブマガジン留学交流	6. 最初と最後の頁 12-17
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 中島 悠介・保道 晴奈	4. 巻 53
2. 論文標題 アラブ・オープン大学のトランスナショナルな制度的展開に関する一考察	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 大阪大谷大学紀要	6. 最初と最後の頁 127-139
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 中島 悠介	4. 巻 65
2. 論文標題 アラブ首長国連邦におけるトランスナショナル高等教育の展開 - 国境を越える大学とその可能性 -	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 UAE（日本アラブ首長国連邦協会）	6. 最初と最後の頁 7-12
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中島 悠介	4. 巻 3
2. 論文標題 エジプト高等教育における国家教育質保証・適格認定機構の役割と課題	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 地域連携教育研究 (京都大学学際融合教育研究推進センター地域連携教育研究推進ユニット)	6. 最初と最後の頁 48-60
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計7件 (うち招待講演 1件 / うち国際学会 1件)

1. 発表者名 中島 悠介
2. 発表標題 アラブ首長国連邦における海外分校：20年の軌跡と展望
3. 学会等名 第三世界の教育研究会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 中島悠介
2. 発表標題 新型コロナウイルス禍における外国大学分校 - アラブ首長国連邦を事例として
3. 学会等名 日本比較教育学会第57回大会 (ラウンドテーブル)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Nambu, H. and Nakajima, Y.
2. 発表標題 Transformation of Undergraduate Education in East Asia
3. 学会等名 World Education Research Association 2019 Focal Meeting in Tokyo 10th Anniversary (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 中島 悠介
2. 発表標題 湾岸諸国における海外分校の展開 - UAE とカタールに着目して -
3. 学会等名 トランスナショナル高等教育研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 中島 悠介
2. 発表標題 ドバイにおけるフリーゾーンと海外分校 海外分校は「砂上の楼閣」なのか
3. 学会等名 けいはんな学研都市地域を軸とした教育システム輸出拠点の形成
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 中島 悠介
2. 発表標題 カタールにおける海外分校質保証 - 質保証機関による関与と分校による調整を中心に -
3. 学会等名 日本比較教育学会第55回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 中島悠介
2. 発表標題 アラブ首長国連邦におけるトランスナショナル高等教育の展開
3. 学会等名 日本アラブ首長国連邦協会 第44回通常総会（招待講演）
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計7件

1. 著者名 杉本 均・南部 広孝編著	4. 発行年 2023年
2. 出版社 東信堂	5. 総ページ数 360
3. 書名 リーディングス 比較する比較教育学	

1. 著者名 押川文子監修・小原優貴・茶谷智之・安念真衣子・野沢恵美子編著	4. 発行年 2022年
2. 出版社 玉川大学出版部	5. 総ページ数 263
3. 書名 教育からみる南アジア社会：交錯する機会と苦悩	

1. 著者名 森下稔・鴨川明子・市川桂編著	4. 発行年 2021年
2. 出版社 東信堂	5. 総ページ数 208
3. 書名 若手研究者必携 比較教育学のアカデミック・キャリア	

1. 著者名 中島 悠介	4. 発行年 2021年
2. 出版社 東信堂	5. 総ページ数 252
3. 書名 湾岸アラブ諸国における外国大学分校の質保証	

1. 著者名 中島 悠介・内田 直義（解題・訳）（南部 広孝 編著）	4. 発行年 2020年
2. 出版社 京都大学大学院教育学研究科	5. 総ページ数 246
3. 書名 後発国における大学院教育及び学位制度の導入と変容に関する比較研究（担当：ヨルダン大学大学院における学位の授与に関する規則 『ヨルダン大学における修士学位の授与に関する規則（2012年8月12日付学部長評議会決定968/2012号）』 『ヨルダン大学における博士学位の授与に関する規則（2012年8月29日付学部長評議会決定1059/2012号）』 『ヨルダンにおける大学・大学院の学生数に関する統計』 pp.141-180）	

1. 著者名 中島 悠介・内田 直義（南部 広孝 編著）	4. 発行年 2019年
2. 出版社 広島大学高等教育研究開発センター	5. 総ページ数 102
3. 書名 後発国における学位制度の研究（分担執筆：第6章 エジプトにおける学位制度 pp.69-82）	

1. 著者名 中島 悠介・内田 直義（解題・訳）（南部 広孝 編著）	4. 発行年 2019年
2. 出版社 京都大学大学院教育学研究科	5. 総ページ数 281
3. 書名 後発国における大学院教育及び学位制度の導入と変容に関する比較研究（担当：エジプトにおける学位制度に関する規定 『エジプト・アラブ共和国大統領決定（1975年第809号）：大学組織化に関する事項における1972年第49号法のための実行規則』 『私立・国民大学法（2009年第12号）：官報2009年3月3日第9号』 pp.185-272）	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------